

# 世界と比較した日本の男女共同参画社会 ～育休は女性のためのものなのか～

## 私たちのテーマ

現在の日本社会では男女格差解消に向けた活動や政策が行われている

実際にはまだ解決には至っていない

SDGsの「5.ジェンダー平等を実現しよう」に関連している。



## プロジェクトの目標

「日本での男女格差解消に向けた政策を自分たちで考案する」

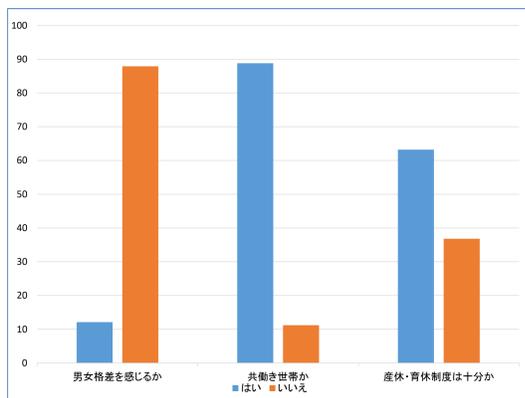


日本の現状について調べ、それを世界のジェンダー先進国と言われる、ジェンダー格差指数の低い、特にヨーロッパの国々と比較し、そこから日本に導入が必要な政策などを見つけていく

## プロジェクトの内容

①調査 ヨーロッパ、特にノルウェーとスウェーデンでジェンダー格差指数が非常に低い！  
日本で女性がさらに活躍するには、産休・育休の制度を改善することが必要

②アンケート実施 高知西高校の生徒と教員379名にアンケートを取った結果



○産休・育休の制度がどのように改善されればよいと思うか

- ・男性も育休を取りやすくする。
- ・産休・育休の取りやすい雰囲気作りをする。
- ・産休・育休明けに復帰しやすくする。
- ・期間を伸ばす。
- ・金銭的な支援をもっと増やす。
- ・職業によらず産休・育休を取りやすくする。

○先生方への聞き込み調査

- ・話を聞いた男性の先生は全員育休を取っていなかった。
- ・育休を取りたいと思うが、仕事を他の人に頼むことを考えると休みづらい。

③結果の考察と政策の考案

アンケートの結果から、日本はまだ「家事は女性がするもので当然である」という固定概念が浸透していることが分かった。また、職場環境の雰囲気によっては取りにくいことがある。

⇒男性の育休制度の普及を促すことができれば、男性の家事参加も促せられる!!  
職場環境の改善も必要である。

○政策案

- ・育休ではなく、半休やリモートワーク・定時退社などの選択肢を増やすことを義務付け、男性が育休の取りやすい環境を作る。
- ・託児所の設置を奨励し、職場復帰をさせなかったり、給料を下げるなどの対応をした企業には罰則を与え、母親の職場復帰しやすい環境を作る。

## プロジェクトの成果・まとめ

日本と世界の産休・育休制度について調べ、日本にはまだ浸透していないことが分かった。さらにアンケートを実施し、私たち高校生から見ても改善すべき問題の一つであるという意識があった。



これを解決するためには私たちの力だけでなく、社会全体が大きな問題であるという意識を持ちながら、積極的に行動すべきである。

## 今後の課題・展望

この政策が日本で現実的に導入できるかどうかを検討していき、不可能だった場合には他の解決案を探っていく。また、この事案が解決となれば今困っている母親の助けとなり、女性の職場復帰がしやすくなるだろう。男女共同参画社会の実現に向けての糸口となるだろう。



参考文献  
マイナビニュース(2018)「産休・育休はいつからいつまで取れる? 制度の基本ともらえるお金」  
<<https://news.mynavi.jp/article/20180406-607721/>>  
社会保険労務士法人アールワン(2020)「産休育休の期間と手当の計算」  
<https://www.office-r1.jp/chikagaku/>  
<https://www.managoo.com/news/detail/1024> 日本と諸外国の制度の違い  
<https://www.ashita-team.com/jinji-online/category/10433> クオーター制  
<https://topics.smt.docomo.ne.jp/article/doctortrust/bizskills/doctortrust-20190226151659240> 日本とノルウェーの違い  
<https://www.norway.no/ja/japan/norway-japan/news-events/news/5/> 駐日ノルウェー大使館より  
<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/feature/29998.html> 男性育休  
<https://www.google.co.jp/amp/s/sekai-ju.com/life/nor/education/amp/>  
[https://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/07/dl/h0701-6a\\_0004.pdf](https://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/07/dl/h0701-6a_0004.pdf)  
諸外国のババークォーター制